

第60回学術大会プログラム

9月11日（火）

9:00 受付開始（2号館1F）

開始時刻	第1会場 (本館 1253 教室)	第2会場 (本館 1254 教室)	第3会場 (本館 1255 教室)	第4会場 (本館 1252 教室)
9:30～	朴 鍾順 日本文学とキリスト教	藤本 憲正 ハンス・キュンク (Hans Küng) のエキュメニズム思想に関する 一考察	渡部 和隆 内村鑑三のコヘレト書解釈	岩崎 大悟 創世記 22 章における「神を畏 れること」の文学的機能
10:00～	原 真由美 太平洋戦争後のアメリカ・バプ テスタの対日宣教政策につい て	岩井 謙太郎 シュヴァイツァーにおける生命 観と倫理の諸問題 — 理性と情 動の関係性—	金 柱英 新渡戸稲造の「偉人論」 — 悲 哀の使命による社会改革	能勢 岳史 エデンの園の物語およびヨブ 記の創造と「反創造」
10:30～	大宮 有博 日本聖書解釈史に見られる二 つの流れ	森本 典子 19 世紀デンマークにおける二つ の内国伝道	加藤 拓未 安部正義 (1891～1974) のオラ トリオ《ヨブ》 — 新発見資料 と讚美歌『馬槽のなかに』との 創作上の関係	堀川 敏寛 出エジプト記の神名に関する 一考察 M・ブーバーの哲学的 解釈より
11:00～	休憩 (15 分)			
11:15～	文 禎顕 『告白録』における confessio の意味の再考察	佐柳 文男 新しい信条を求めて：H・リチャ ード・ニーバー（1894－19 62）の神学	今高 義也 鴻峰学人・柏井園の思想形成 — 明治学院講師時代を中心に —	原口 尚彰 福音に相応しく生きる戦い：フ ィリピ書の修辞学的分析
11:45～	津田 謙治 エイレナイオスの伝えるプト レマイオス派の神話と『フロー ラへの手紙』	森島 豊 歴史の中の社会運動 F. D. モー リスと W. ラウシェンブッシュ	篠崎 恭久 『貧民心理の研究』にみられる 賀川豊彦の下層民衆認識とス ラム伝道の課題	関 智征 パウロにおける霊的悟り
12:15～	昼休み (オルガンと黙想)			
13:30～	総会 I (13:30～13:50) (2号館 2301 教室)			
14:00～	<p>講演 「日本キリスト教史における賀川豊彦—再評価は可能か—」</p> <p>講演者 加山 久夫 氏（賀川豊彦記念松沢資料館長） 司 会 永野 茂洋 氏（明治学院大学）</p> <p>(2号館 2301 教室)</p>			
17:00～	全国理事・幹事会 (2号館 2201 教室)			

9月12日(水)

9:00 受付開始(2号館1F)

開始時刻	第1会場 (本館1253教室)	第2会場 (本館1254教室)	第3会場 (本館1255教室)
9:30~	南 翔一郎 カント哲学における信仰の対象としての神	香山 洋人 神学からの教会批判 —保守化する韓国教会に対する民衆神学の巻き返しの行方—	大野 剛 協同組合運動に期待される賀川の福祉思想
10:00~	加藤 喜之 中世と近代のはざま —プロテスタント正統主義とデカルト主義—	藤原 佐和子 ナンタワン・ブーンブラサート・ルイスの中期思想	ブライアン・バード ラインホールド・ニーバーと賀川豊彦 —共同組合とオルタナティブ・コミュニティの可能性と限界
10:30~	三上 章 ジョン・スミスの宗教観 —「真の宗教の卓越性と高貴性」—	福嶋 揚 戦争と倫理 —カール・バルトを手がかりとして	スティグ・リンドバーグ 賀川の東洋思想の理解と評価
11:00~	休憩(15分)		
11:15~	桑原 光一郎 パッチィのマリア・マグダレーナによる教会の再改革 —内的刷新から実践へ: リッチのカタリナへの書簡から—	朝香 知己 生殖補助医療についての神学的一考察 —同性カップルの家族形成を中心に—	村山 由美 黄昏の預言者 —賀川豊彦におけるキリスト、聖書、政治
11:45~	伊勢田 奈緒 ルターの宗教改革を支えた音楽の働きについて	谷塚 昇 科学と宗教(キリスト教)の接点に関する考察	岩田 三枝子 賀川ハルと覚醒婦人協会 —女性・労働・キリスト教信仰—
12:15~	昼休み (オルガンと黙想)		
12:30~	学会誌編集委員会 (2号館2201教室)		
14:00~	総会Ⅱ (2号館2301教室)		
14:45~	休憩(15分)		
15:00~	シンポジウム 「賀川豊彦と現代・評価と展望」 パネリスト: 稲垣 久和 氏(東京基督教大学大学院) 鶴沼 裕子 氏(聖学院大学大学院) 戒能 信生 氏(日本基督教団東駒形教会・日本聖書神学校) (2号館2301教室)		